

□再生利用率 □減量化率 ■最終処分率

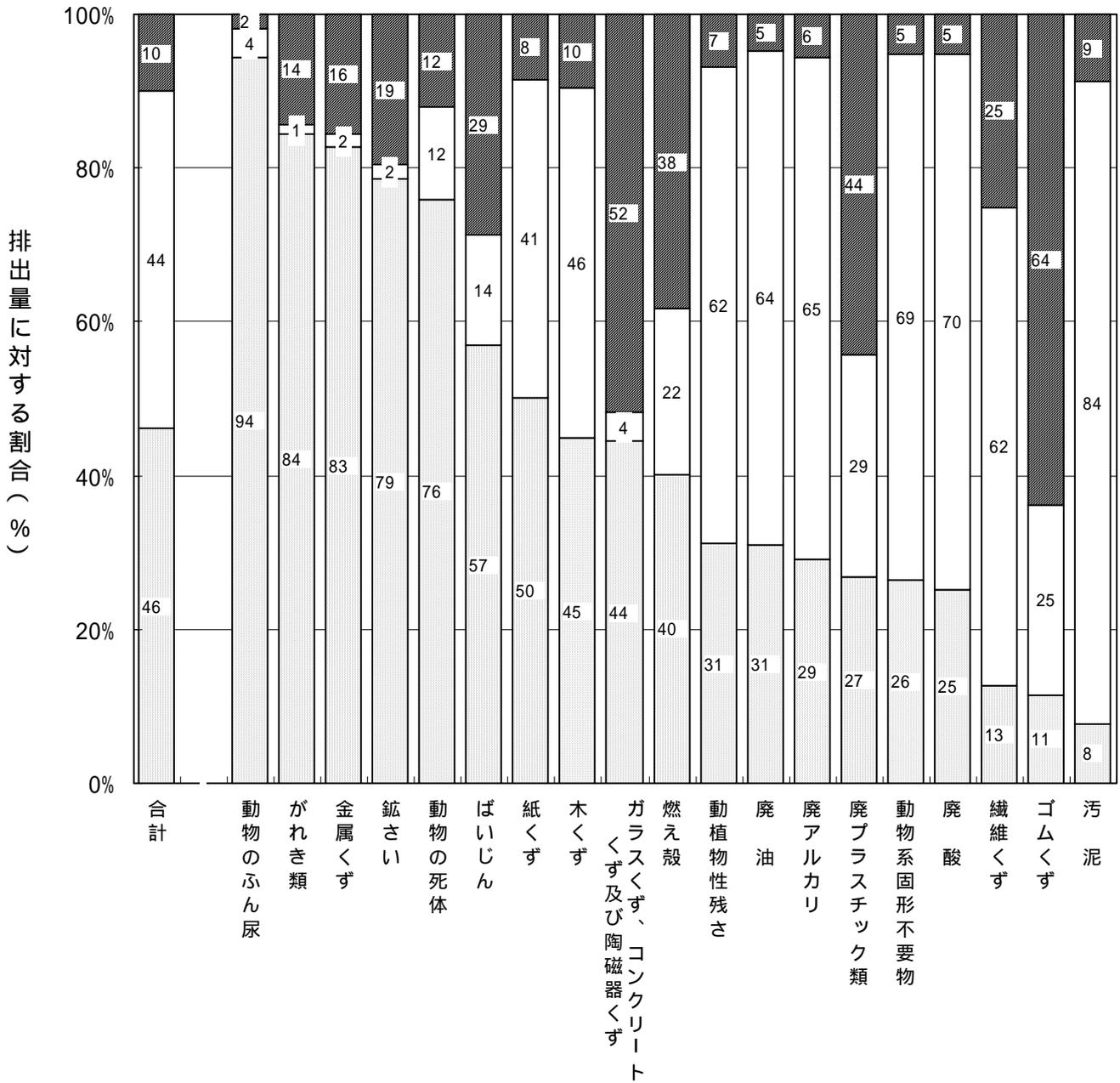


図 - 5 産業廃棄物別の処理状況

表 - 10 産業廃棄物排出・処理状況一覧表

(単位：t / 年)

	排出量 (A)	直接再生 利用量 (B)	直接 最終処分量 (C)	中間処理				再生 利用量計 (B)+(F)	減量化量 (D)-(E)	最終処分量計 (C)+(G)
				中間処理量 (D)	処理残渣量 (E)	再生利用量 (F)	最終処分 (G)			
燃 え 殻	1,782,459	77,757	579,422	1,125,280	738,169	636,072	102,097	713,828	387,111	681,519
構成比		4	33	63	41	36	6	40	22	38
汚 泥	182,437,871	836,945	5,231,383	176,369,543	23,859,460	13,339,669	10,519,791	14,176,614	152,510,083	15,751,174
構成比		0	3	97	13	7	6	8	84	9
廃 油	3,185,057	139,971	38,807	3,006,279	955,555	843,964	111,591	983,935	2,050,724	150,398
構成比		4	1	94	30	26	4	31	64	5
廃 酸	2,680,730	106,630	37,501	2,536,598	669,259	567,244	102,015	673,874	1,867,340	139,516
構成比		4	1	95	25	21	4	25	70	5
廃 アルカリ	1,491,521	117,689	7,818	1,366,015	390,325	315,185	75,140	432,874	975,690	82,957
構成比		8	1	92	26	21	5	29	65	6
廃 プラスチック類	5,551,523	223,949	1,345,509	3,982,065	2,378,317	1,264,491	1,113,827	1,488,440	1,603,748	2,459,336
構成比		4	24	72	43	23	20	27	29	44
紙 く ず	2,095,961	24,686	77,671	1,993,604	1,126,050	1,026,828	99,222	1,051,514	867,554	176,893
構成比		1	4	95	54	49	5	50	41	8
木 く ず	4,962,726	245,374	236,293	4,481,059	2,221,482	1,981,503	239,978	2,226,877	2,259,577	476,272
構成比		5	5	90	45	40	5	45	46	10
織 維 く ず	69,963	138	11,160	58,665	15,139	8,748	6,391	8,887	43,526	17,551
構成比		0	16	84	22	13	9	13	62	25
動植物性残さ	4,477,413	65,574	220,864	4,190,975	1,415,948	1,328,062	87,885	1,393,636	2,775,028	308,749
構成比		1	5	94	32	30	2	31	62	7
動物系固形物	202,848	0	0	202,848	63,789	53,455	10,334	53,455	139,059	10,334
構成比		0	0	100	31	26	5	26	69	5
ゴ ム く ず	36,826	220	16,220	20,386	11,220	3,974	7,247	4,194	9,166	23,466
構成比		1	44	55	30	11	20	11	25	64
金 属 く ず	7,684,156	1,334,229	603,356	5,746,572	5,629,990	5,031,373	598,617	6,365,602	116,582	1,201,973
構成比		17	8	75	73	65	8	83	2	16
ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず	4,544,973	130,857	930,144	3,483,972	3,313,066	1,890,519	1,422,547	2,021,376	170,905	2,352,691
構成比		3	20	77	73	42	31	44	4	52
鋳 さ い	16,249,190	1,057,096	2,820,949	12,371,145	12,069,855	11,728,075	341,780	12,785,171	301,290	3,162,729
構成比		7	17	76	74	72	2	79	2	19
が れ き 類	55,364,600	1,015,393	3,646,983	50,702,224	49,969,712	45,670,624	4,299,088	46,686,017	732,512	7,946,070
構成比		2	7	92	90	82	8	84	1	14
動物のふん尿	89,798,935	75,437,145	1,582,951	12,778,839	9,326,380	9,291,787	34,592	84,728,932	3,452,460	1,617,543
構成比		84	2	14	10	10	0	94	4	2
動物の死体	210,602	0	21,024	189,578	164,229	159,792	4,437	159,792	25,349	25,462
構成比		0	10	90	78	76	2	76	12	12
ば い じ ん	10,406,323	1,417,040	2,680,012	6,309,271	4,800,606	4,504,146	296,460	5,921,186	1,508,665	2,976,472
構成比		14	26	61	46	43	3	57	14	29
合 計	393,233,677	82,230,694	20,088,065	290,914,919	119,118,550	99,645,511	19,473,039	181,876,205	171,796,368	39,561,104
構成比		20.9	5.1	74.0	30.3	25.3	5.0	46.3	43.7	10.1

* 各廃棄物の産業廃棄物排出量は、四捨五入してあるため合算した値は合計値と異なる。

3 - 1 再生利用量

再生利用量は図 - ・ 4 に示すように、総排出量約 393,234 千トンのうち約 181,876 千トン（全体の 46%）であった。

種類別にみると図 - ・ 6 に示すように、再生利用率の最も高い廃棄物は、動物のふん尿の 94%（約 84,729 千トン）、がれき類の 84%（46,686 千トン）、金属くずの 83%（約 6,366 千トン）であった。これらのうち動物のふん尿については直接再生利用率が高く、金属くず、鋳さい、がれき類、動物の死体については中間処理後の再生利用率が高い。一方、再生利用率の低い廃棄物は、汚泥の 8%（約 14,177 千トン）、ゴムくずの 11%（約 4 千トン）であった。

また、量的にみると、図 - ・ 7 に示す様に動物のふん尿の約 84,729 千トン（全体の 47%）、がれき類の約 46,686 千トン（同 26%）、汚泥の約 14,177 千トン（同 8%）が多く、これら 3 種で全体のおよそ 8 割を占めている。

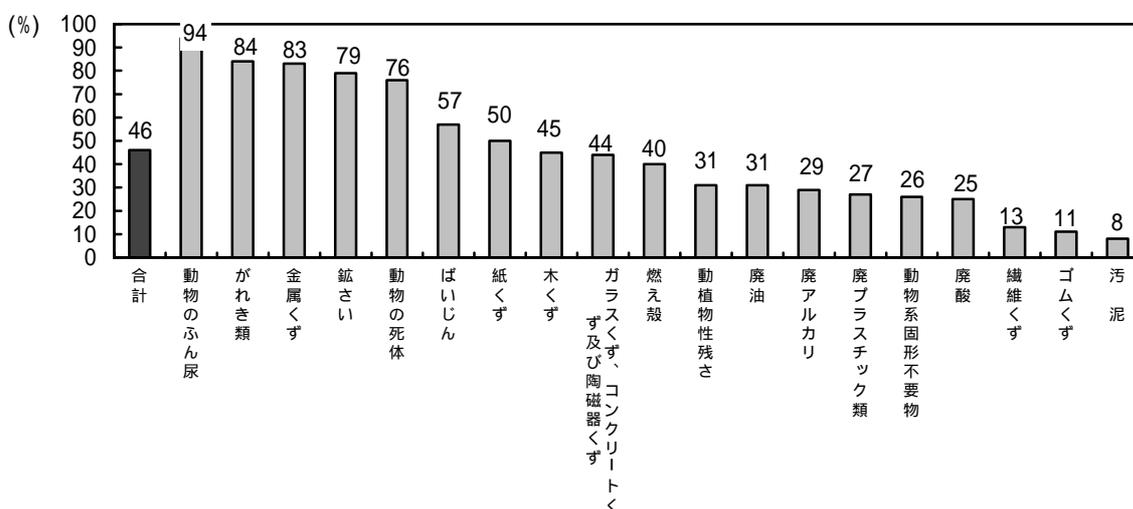


図 - ・ 6 種類別再生利用率

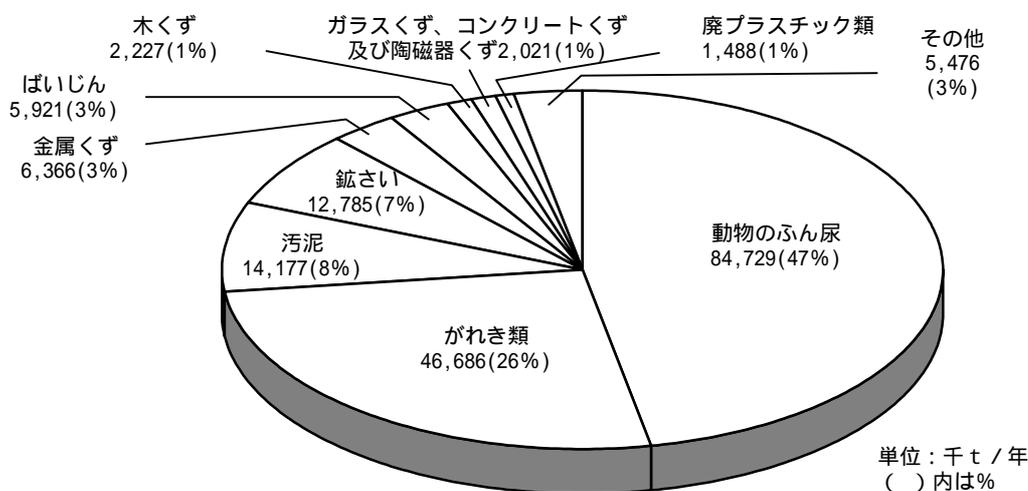


図 - ・ 7 再生利用量の比率

3 - 2 減量化量

総排出量約 393,234 千トンの産業廃棄物は図 - ・ 4 に示すように、中間処理された産業廃棄物の約 290,915 千トン（全体の 74%）は約 119,119 千トン（同 30%）まで減量化され、その量は約 171,796 千トン（同 44%）である。

種類別にみると図 - ・ 8 に示すように、減量化率の最も高い廃棄物は、汚泥の 84%（約 152,510 千トン）、廃酸の 70%（約 1,867 千トン）、次いで動物系固形不要物の 69%（約 139 千トン）であった。一方、減量化率の低い廃棄物は、がれき類の 1%（約 733 千トン）、金属くずの 2%（約 117 千トン）、鋳さいの 2%（約 301 千トン）であった。

また、量的にみると図 - ・ 9 に示すように汚泥の約 152,510 千トン（全体の 89%）が飛び抜けて多く減量化量全体のおよそ 9 割を占めている。

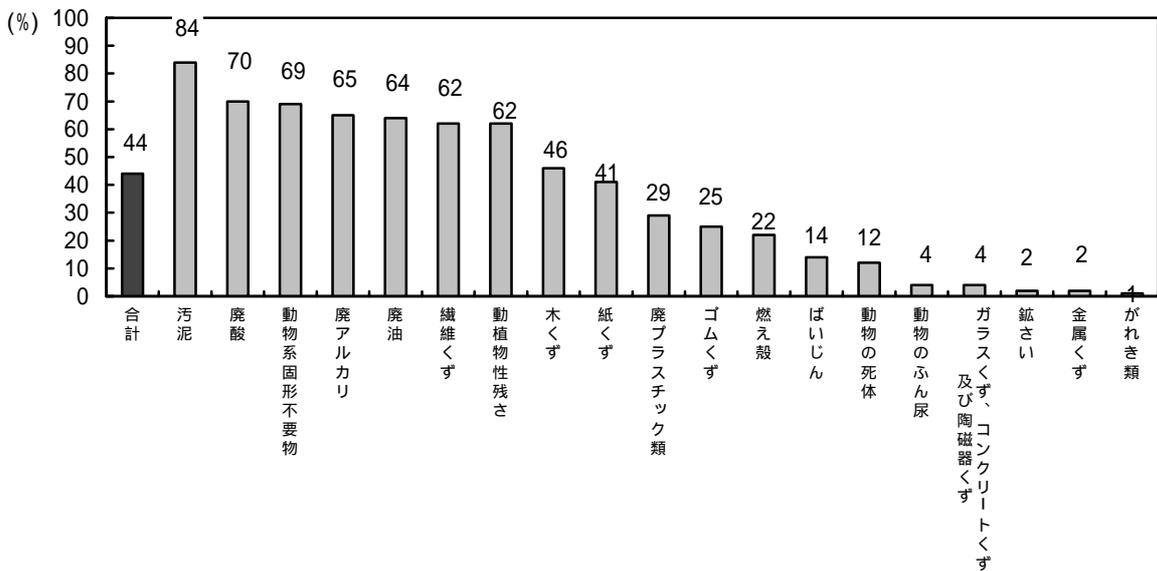


図 - ・ 8 種類別減量化率

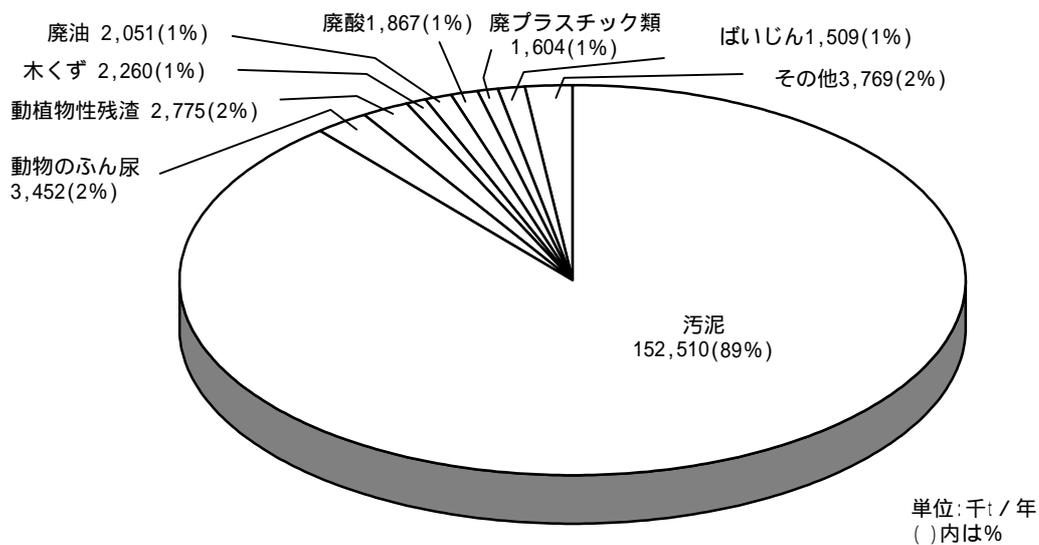


図 - ・ 9 減量化量の比率

3 - 3 最終処分量

産業廃棄物の最終処分量は図 - ・ 4 に示すように、総排出量約 393,234 千トンのうち約 39,561 千トン（全体の 10%）である。

種類別にみると図 - ・ 1 0 に示すように、最終処分率の最も高い廃棄物は、ゴムくずの 64%（約 23 千トン）、次いでガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くずの 52%（約 2,353 千トン）であった。一方、最終処分率の低い廃棄物は、動物のふん尿の 2%（約 1,618 千トン）、廃油の 5%（約 150 千トン）、動物系固形不要物の 5%（約 10 千トン）、廃酸の 5%（約 140 千トン）であった。

また、量的にみると図 - ・ 1 1 に示すように汚泥の約 15,751 千トン（全体の 40%）、がれき類の約 7,946 千トン（同 20%）、鉱さいの約 3,163 千トン（同 8%）が多く、合わせて最終処分量全体のおよそ 7 割を占めている。

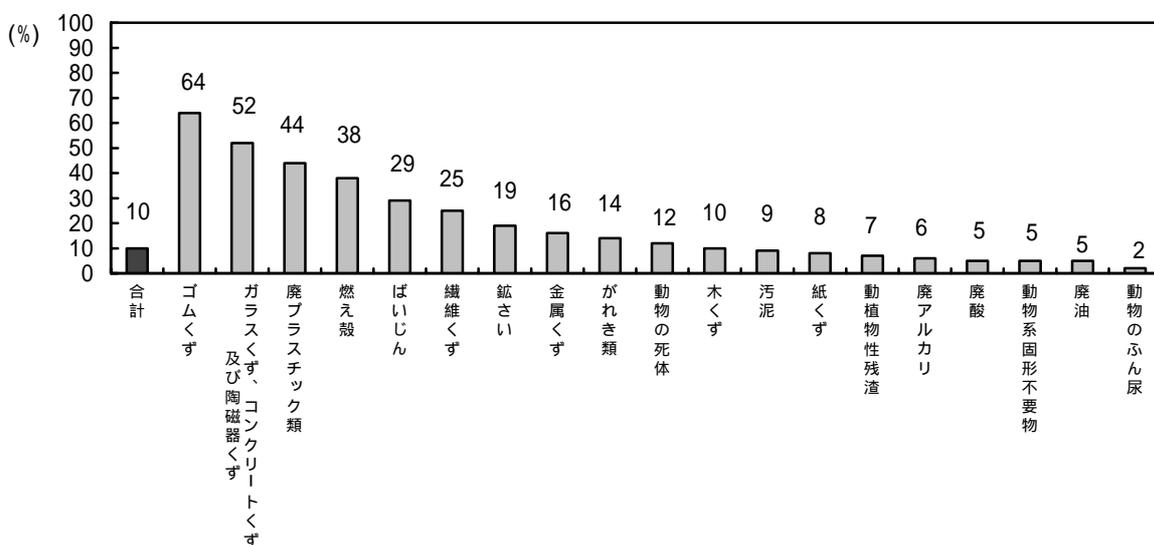


図 - ・ 1 0 種類別最終処分率

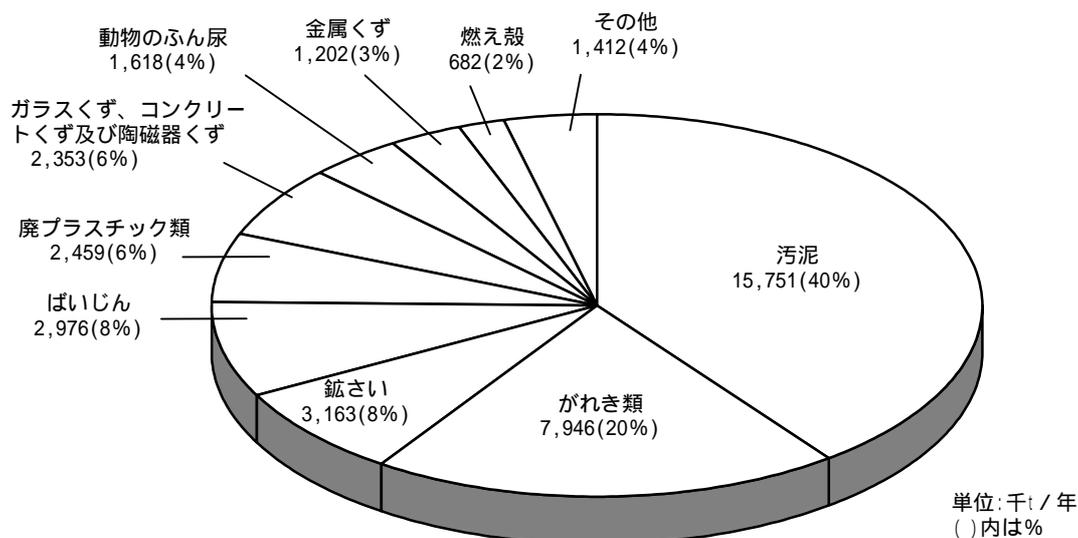


図 - ・ 1 1 最終処分量の比率

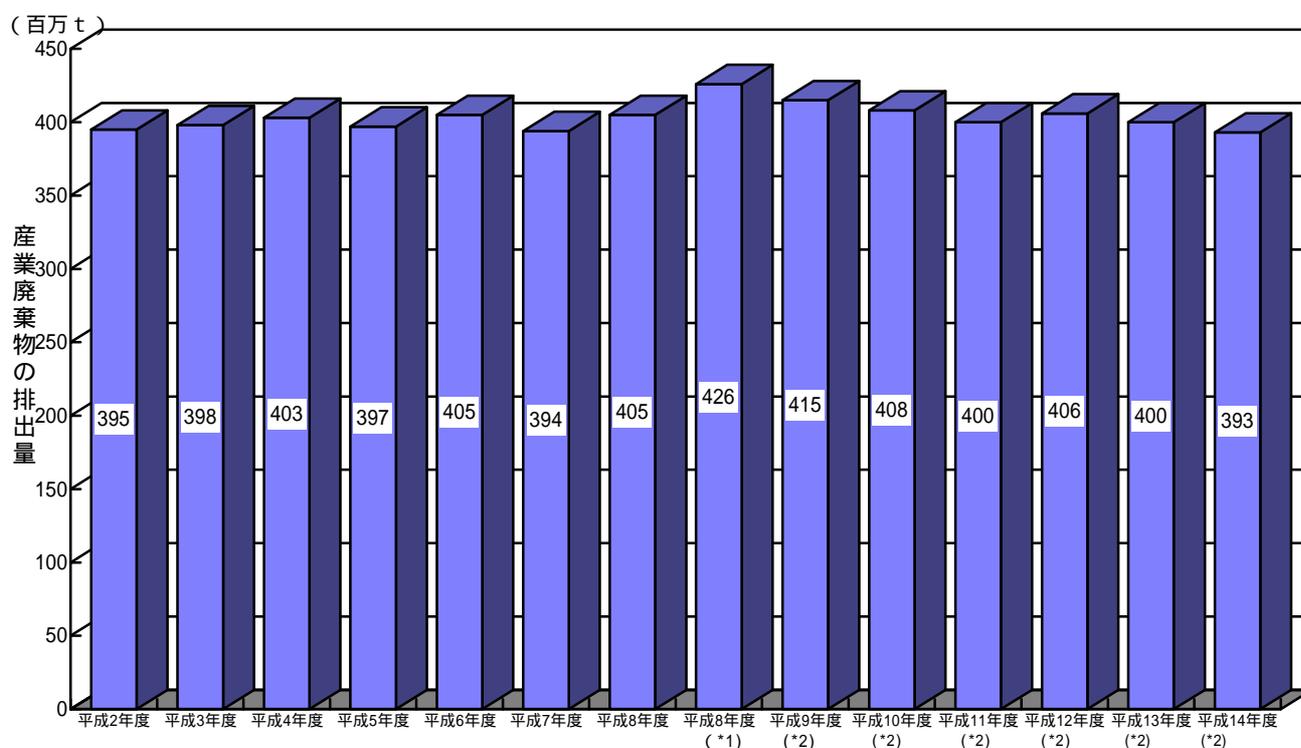
III. まとめ

推計された排出量及び処理・処分状況について、前回調査結果（平成 13 年度調査）との比較を行いとりまとめた。

なお、平成 14 年度の排出量については、前回調査と同様に平成 11 年 9 月 28 日政府決定されたダイオキシン対策基本方針（ダイオキシン対策関係閣僚会議決定）に基づき、政府が平成 22 年度を目標年度として設定した「廃棄物の減量化の目標量」における平成 8 年度排出量と同様の算出条件を用いて算出したものである。

1. 全国排出量

平成 14 年度の産業廃棄物の排出量は約 393,234 千トンと前年（平成 13 年度）の約 400,243 千トンと比較して約 7,009 千トン（前年比 1.8%）減少したものの、平成 2 年度以降ほぼ横ばいの状態で推移している。



*1 ダイオキシン対策基本方針（ダイオキシン対策関係閣僚会議決定）に基づき、政府が平成 22 年度を目標年度として設定した「廃棄物の減量化の目標量」（平成 11 年 9 月 28 日政府決定）における平成 8 年度の排出量を示す。

*2 平成 9 年度以降の排出量は、*1 と同様の算出条件を用いて算出したもの。

図 - ・ 1 産業廃棄物排出量の推移

1 - 1 業種別排出量

業種別排出量の推移を図 - 2 に示す。

排出量が多い業種上位 10 業種について平成 13 年度（前回調査結果）と比較すると、順位では、前回 1 位だった電気・ガス・熱供給・水道業が 2 位の農業と入れ替わった。それ以外はほぼ前回と同一であった。

個別の排出量について増減をみると、電気・ガス・熱供給・水道業は約 3,402 千トン、建設業は約 2,641 千トン、鉱業は約 1,363 千トン、窯業・土石製品製造業は 1,312 千トン減少した。一方、パルプ・紙・紙加工品製造業は約 3,264 千トン増加した。

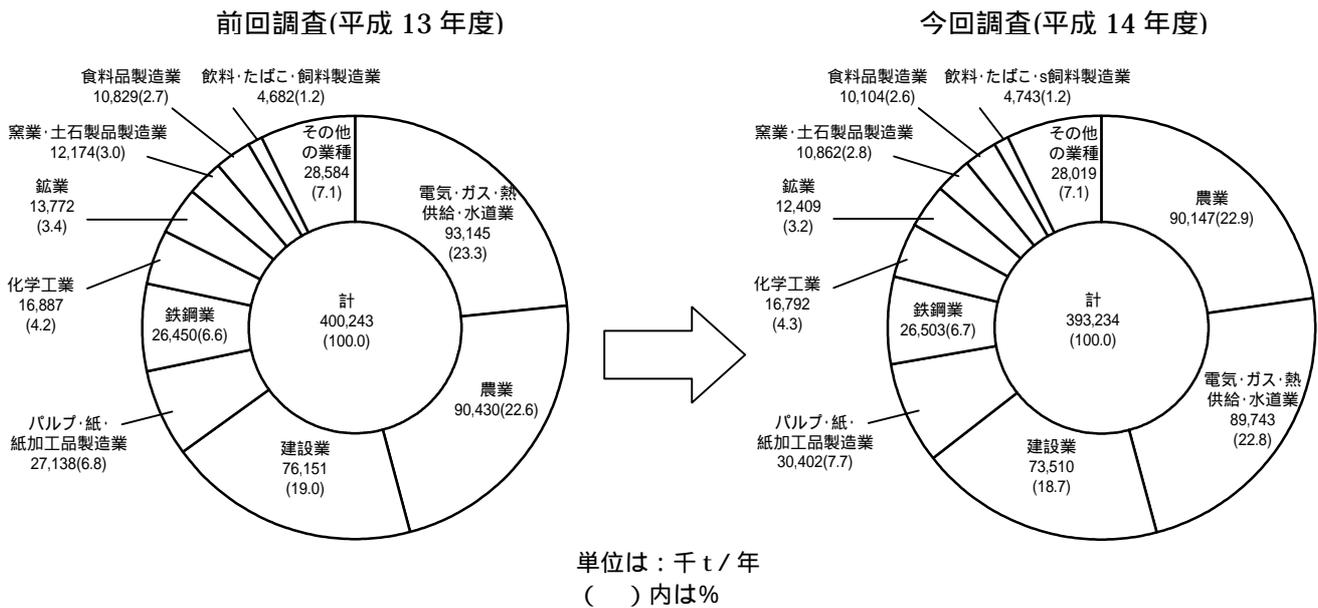


図 - 2 産業廃棄物の業種別排出量の推移

1 - 2 種類別排出量

種類別排出利用の推移を図 - ・ 3 に示す。

排出量が多い種類上位 10 種について、平成 13 年度（前回調査結果）と比較すると、順位に変化はなかった。

個別の排出量について増減をみると、汚泥は約 4,457 千トン、がれき類は約 1,732 千トン減少した。一方、動植物性残さは約 367 千トン増加した。

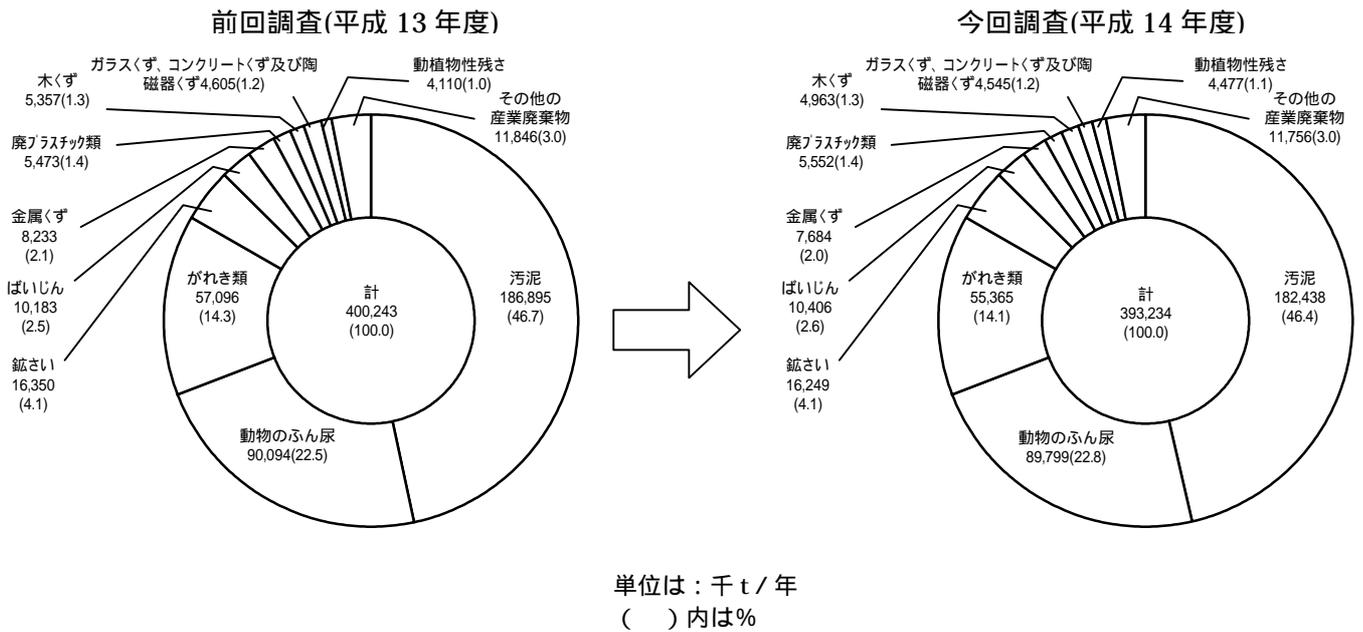


図 - ・ 3 産業廃棄物の種類別排出量の推移

1 - 3 地域別排出量

地域別排出量の推移を図 - ・ 4 に示す。

平成 13 年度（前回調査結果）と比較してみると、前回 3 位の近畿地方と 4 位の九州地方の順位が入れ替わった。それ以外は前回と同一であった。

個別の排出量について増減をみると、関東は約 6,708 千トン、近畿は約 1,408 千トン、中部は約 855 千トン、東北は約 612 千トン、中国は約 533 千トン、四国は約 261 千トン、九州は約 98 千トン減少した。一方、北海道は約 3,356 千トン増加した。

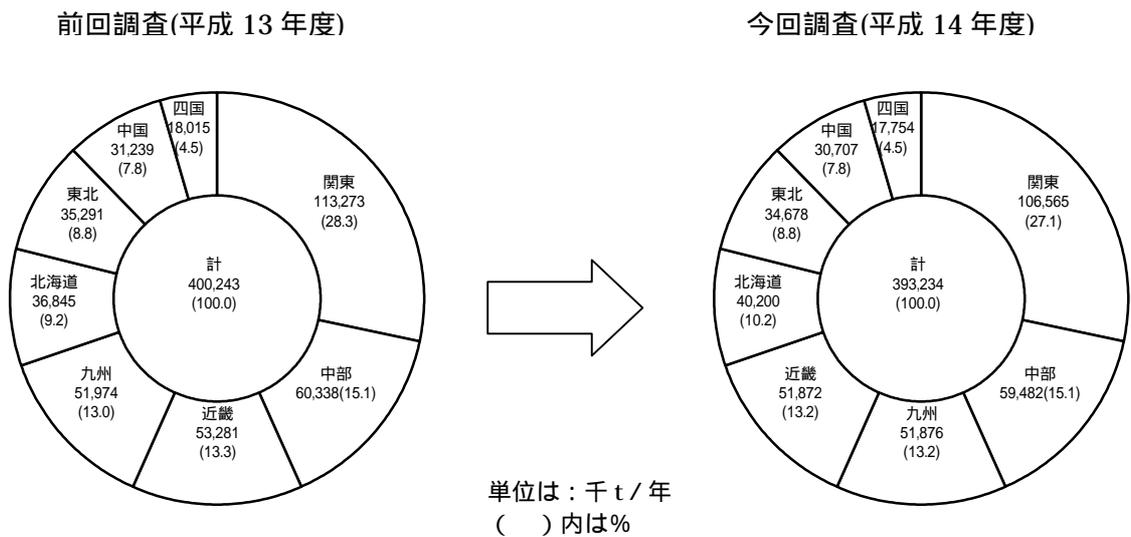


図 - ・ 4 産業廃棄物の地域別排出量の推移

2. 処理状況

2 - 1 総排出量、直接再生利用量、中間処理量、直接最終処分量の推移

排出処理状況の推移を図 - 5 に示す。

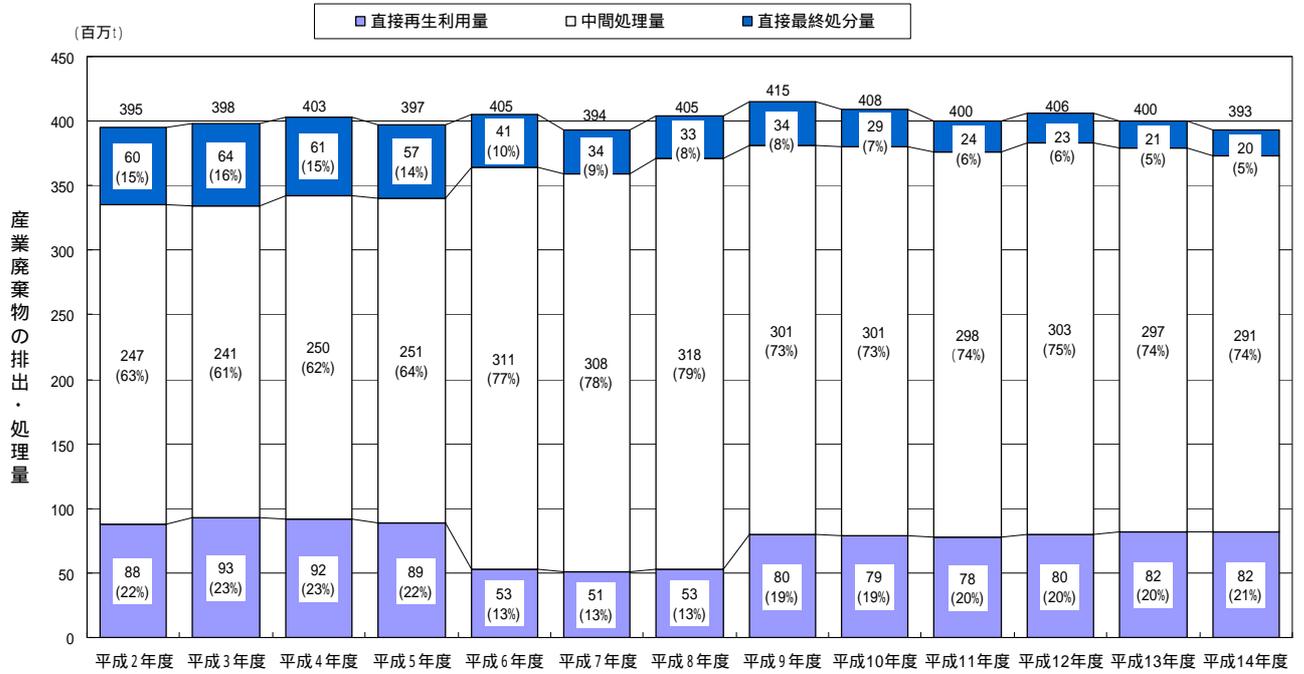
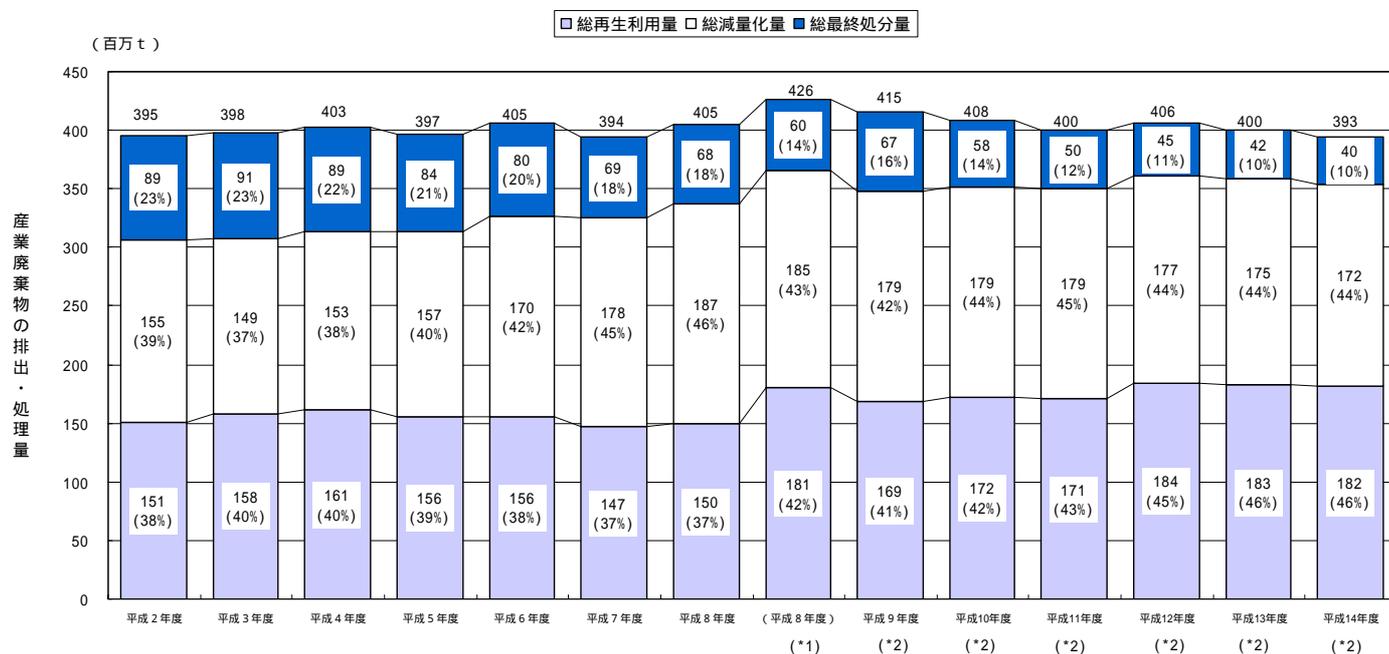


図 - 5 総排出量、直接再生利用量、中間処理量、直接最終処分量の推移

2 - 2 総排出量、総再生利用量、総減量化量、総最終処分量の推移

排出処理状況の推移を図 - ・ 6 に示す。



*1 ダイオキシン対策基本方針（ダイオキシン対策関係閣僚会議決定）に基づき、政府が平成 22 年度を目標年度として設定した「廃棄物の減量化の目標量」（平成 11 年 9 月 28 日政府決定）における平成 8 年度の排出量を示す。

*2 平成 9 年度以降の排出量は、*1 と同様の算出条件を用いて算出したもの。

図 - ・ 6 総排出量、総再生利用量、総減量化量、総最終処分量の推移

